

京都府  
京丹波町  
KYOTAMBA

# 移住 × 起業

ガイドブック

この一冊からはじまる—  
京丹波町で「移住・起業」という選択肢。



◎表紙の人

つみ木家具店（京丹波町買美）

上田大輔さん・亜紀さん

平成18年9月に京丹波町へ移住

本誌P10～11で紹介

KYOTAMBA 移住 × 起業ガイドブック



4人の先駆者たちが語る  
京丹波町での移住起業哲学。



KYOTAMBA 移住 × 起業ガイドブック



発行者 ● 京都府京丹波町

発行日 ● 平成28年11月1日

（令和元年6月1日改訂）

（令和4年3月31日改訂）

URL <http://www.town.kyotamba.kyoto.jp>

京丹波町の特徴



**POINT①** 京阪神の都市圏へ1時間台で移動可能。名古屋へも約2時間の距離。

農山村でありながら交通アクセスが良く、鉄道でも高速道路でもほぼ1時間台で京阪神の都市圏へ移動可能。さらに海や山へのレジャーも楽々アクセスできる好立地にあります。

**POINT②** 豊かな丹波ブランド食材。地域資源を活かせる起業環境。

京丹波町は丹波クリ、丹波黒豆、京野菜、キノコ類など全国的に有名な「丹波ブランド食材」の生産地。だからこそ商品に「京丹波」「京都丹波」「丹波」などのネーミングを戦略的に使い、地域資源を活かせる起業環境があります。

**POINT③** 身近な阪路=町内4つの道の駅

京丹波町には4つの「道の駅」があり、京阪神などの都市圏から多くの方が訪れています。中でも道の駅「京丹波 味夢（あじむ）の里」は京都縦貫自動車道「京丹波PA」に併設されており、京丹波町を代表する一大マーケットになっています。（P19の「エリアマップ」をご覧ください。）

**POINT④** 生活インフラも充実。

IT環境、上下水道、病院、認定こども園、町営住宅等の生活インフラのほか、医療費助成や出産祝金など子育て環境も充実。田舎ならではの良さを生かし、豊かな心身を育む教育・子育て環境があります。（P14-17の「暮らしのガイド」をご覧ください。）

京丹波町の地勢

**【人口】**  
12,907人  
**【面積】**  
303.09 k㎡  
※R2.10.1国勢調査

京丹波町は、京都府のほぼ中央部にあたる丹波高原の由良川水系上流部に位置し、長老ヶ岳（917m）のほか標高400m～600mの山々に囲まれ、南側の山地は分水嶺の一部を成しています。面積のうち約83%を森林が占め、山間を縫って耕地が広がり、集落が点在する農山村です。古くから京の都と丹後・山陰地方を結ぶ交通の要衝として栄え、現在も京都縦貫自動車道やJR山陰本線をはじめ、国道9号、27号、173号などが交わり、京阪神など大都市圏へ1時間台で移動できる、比較的交通環境に恵まれた地域です。



●気候（平年気温・降水量）



内陸性気候と日本海式気候の特徴を持ち合わせた地域です。夏は京都市などの盆地に比べ比較的涼しい高原的気候で昼夜の寒暖差が大きく、冬は冷え込みが厳しい内陸性気候を示す反面、日本海式気候の影響を受けて季節風が吹き、しぐれやすく、降雪や積雪をもたらすことがあります。降水量は年間を通じて比較的少ない傾向にあります。

「移住起業」という選択！。  
夢と情熱を胸に秘め、いま、  
新しい扉を開こうとしている  
あなたに、  
先駆者たちの  
移住起業哲学を  
お届けします。

CONTENTS

- 03 京丹波町の地勢・特徴
- 04-11 先駆者たちの移住起業哲学
  - 西原悠紀さん | 京都市から移住した千ター職人。古民家を改修して新たな工房を開業。
  - 石橋香織さん | 移住して15年。この地だからこそできた「食材と向き合う」お菓子作り。
  - 土屋隆亮さん | 新天地を求めて東京から移住起業。スタンドグラス遊園地を作るのが夢。
  - 上田大輔さん | 真に求めて来た地で「ほんもの」の豊かさを伝える家具職人。
- 12-13 起業支援 あなたの夢への一歩を応援します。
- 14-17 暮らしのガイド
  - ・住宅・情報・行先・上下水道
  - ・保健福祉・医療・教育
- 18 移住起業Q&A
- 19 京丹波町エリアマップ



豊かな自然、古いものが持つ風合いを感じ取れる暮らし。そこでのギター作りこそが私の、ものづくりに対する体現です。

豊かな自然環境も、古民家も、すべてが自分のギター作りにとって必要不可欠なもの。それでも、京丹波町への移住に不安がなかったわけではないと西原さん。「都会ではお客さんもついていない、田舎へ移住することでこれまでのお客さんや販路を失ってしまわないかという不安はありません。しかし西原さんは続けて「だけど、そうしたデメリットから考えるのではなく、自分は田舎に移住して何がやりたいのか、どうやっていけばいいの」と話します。

西原さんが製作するギターは一つ一つがすべて手作り。東京や大阪の高級ギター店で取り扱われる腕前です。「だけどインテリアとして飾られるギターではなく、「使われるギター作り」をやっていたいかな」と職人の眼差しで西原さん。自らのものづくりへの思いを引き出してくれる環境が京丹波町にはある、四季折々に姿を変える豊かな自然や古民家という新品には出せない風合いを



古民家を改修した工房。古民家の保存状態が良く、リビングと工房を改修した以外はそのまま使っているとのこと。

「区入り」して地域の一人に。地域に対する意識にも変化。京丹波町に移住して3年目。今年から「区入り」し、集落の一員として共同作業（村用）等の集落つきあいを始め、消防団にも入団した西原さん。「集落に溶け込むのにもっと時間がかかると思っていました。近所皆さんあたたかい人ばかりで、近所の方からは季節の野菜をおすそ分け



感じて取れる暮らしなど、すべてが西原さんのギター作りにとって必要不可欠な要素であり、ここでのギター作りこそが自身のものづくりに対する体現だとしてうえで、「販路があれば、都会よりも田舎で作るほうが有利」と西原さん。田舎でギターを作っていることによってお客さんも仕事も増えたと言います。

「移住に対しては夫よりも私のほうが乗り気でした」という知美さんも「思っていたほど不便はありません。スパーも近くにあるし、車があればどこへ行くにもアクセスしやすいので、それに周囲に同世代が多いのも環境的に恵まれているなど実感しています」と話してくれました。地域があるからこそ自分は仕事ができているんだという気持ちに変わってきたと西原さん。最近では仕事より村用を優先すると言いつつ、すっかり地域の一人です。「将来的には農業もやってみたい」と西原さん。知美さんも「いつかは皆が集まれるカフェをやりたい」と、お二人の夢は膨らみます。



NISHIHARA GUITARS  
代表者 西原悠紀 ☎0771-82-1132  
住所 京都府船井郡京丹波町水戸小由里 2  
URL <http://nishiharaguitars.com>



事例紹介①  
移住起業哲学

# 京都市から移住したギター職人。古民家を改修して新たな工房を開業。



NISHIHARA GUITARS  
西原 悠紀さん  
Nishihara Yuuki

知美さん

稔太郎くん

ギターづくりに専念できる環境を求めて移住を決断。

西原悠紀さんご一家が京丹波町へ移住してきたのは平成26年5月。西原さんは京都市出身で、高校卒業後は市内の美容室で美容師として働いていました。「高校時代にロックバンドをやっていましたので、音楽には興味がありましたし、ものづくりを仕事にしたいという気持ちがありましたので」と西原さん。勤めていた美容室を辞めて長野県のギターメーカーに就職。ここでギター製作の技術と知識、経験を積み、独立開業しました。

「起業することに不安や抵抗はありませんでした。自分の周囲にいる人たちの多くは自分で事業をやっている人ばかりだったので」と西原さん。開業当初は京都市の実家近くに工房を構えましたが、起業して一年が経ち、移住を決断。「田舎暮らしへの憧れや自然に囲まれた静かな場所であ



庭で家族団らんのひととき。稔太郎くんは西原さんに、「田舎の環境でのびのび育ってくれれば」と目を細めます。

ギターづくりに専念したいという思いがありましたね」という西原さんは、物件を探してあらゆる地域を見てまわり、たまたま見た京丹波町ホームページで「空家バンク制度」を知り、今の古民家にめぐり会いました。

町役場の担当者からこの物件を紹介され、すぐに決めたという西原さん。「種のある古民家は保存状態が良く、周囲は自然に囲まれ、ギター作りには打ち込める環境に魅力を感じました。しかも京都や大阪へのアクセスの良さも決め手になりました」。

移住、子育て、そして起業。  
焦らず、自然体で、一步一步、  
お菓子作りに取り組んできました。  
和知だから叶えられた「菓歩菓歩」なんです。



**趣味の延長から経営者へ。 自社工房を構え、新たな出発。**

平成15年には今の場所に自社工房を構え、現在の「菓歩菓歩」がスタート。移住起業して2年後、石橋さんが経営者として歩み始めたのです。「不安よりも希望のほうが大きかったですね。販路もあったし、食材には絶対的な自信がありましたから」と石橋さん。安心安全なお菓子作りをめざし、原材料はオーガニック食材を厳選するという徹底ぶりです。しかし、事業が成長していくにつれ、これまで事業を共にしてきた主婦仲間たちとの間に「意識のズレ」が生じ始めました。「主婦の延長線上では販売はできないなと感じていたんですね」と石橋さん。「ちやうど若手も育ってきていて、新しい流れが生まれつつあったので。平成17年、それまでのメンバーを一新し、屋号も「bio sweet's capocapo 菓歩菓歩」に改名。新しいスタートを切りました。「経営者としてはまだまだ」と謙遜する石橋さんですが、移住起業して15年、女性起業家として和知に新しい風を吹かせてきたことは確かです。

**地産地消。地域の農業と共存 共栄するお菓子作り。**

「私たちが移住してきたところは「ターンフーム」で、田舎暮らしを始めた友人も多くいました。一方、移住しても生活が成り立たず、田舎を出ていく人も見られました」と石橋さん。「親会のサラリーマンの生活スタイルを、そのまま持ち込んでしまうと、田舎での生活は難しくなるんでしょね」。かつて石橋さんは人の暮らしの根源を学ぶアジア諸国を巡る旅に出ることがあり、その旅の中で、自然と調和しながら自給自足、地産地消で生活する人びとの暮らしにふれ、「食」の大切に気づいたと言います。「だから私にとっ



# 移住して15年。この地だからこそのお菓子作り。

先駆者たちの 事例紹介②  
**移住起業哲学**

bio sweet's capocapo 菓歩菓歩

石橋  
Ihibashi

香織さん  
Kaori



**移住後、趣味が高じて、主婦仲間たちと自宅の納屋で起業。**

和知地区でオーガニックスイーツ工房「菓歩菓歩」を運営する石橋さんが京都市から移住してきたのは平成13年のこと。「夫のほうが出仕事に興味を抱き、移住を決めたんです」と石橋さん。「あのころ、京都市の同じアパートに住んでいた友人たちも皆、田舎へ移住していききましたね」。都会の人づきあいの煩わしさもあつたし、子育てするなら田舎でいたいとの思いもあつたそうです。

田舎での新しい生活が始まった石橋さん。「当時、子育てしながら、今ふうに言うと『ママ友』たちと自宅に集まっては、お菓子作りを楽しん



でいたんですよ。その趣味が高じて、石橋さんは主婦仲間と自宅でのケーキ作りを始めました。

ちやうどそのころ、和知地区に道の駅「和」がオープン。石橋さんたちは、週末になると道の駅に出店し、主婦仲間で作ったお菓子の販売を始めたのです。「当時とにかく売れれば当たりましたね。今ほどスイーツがなく、珍しさもあって売上もどんどん伸びていきました」と当時を振り返る石橋さん。地元新聞に取り上げられ注目されたのを機に、自宅の納屋を改装して工房を構え、本格的なお菓子作りを開始。「菓歩菓歩」の原型です。

その後、石橋さんたちが開発したシュークリームが大ヒット。百貨店でも売り出されるまでに事業は成長し、売上も右肩上がりに伸びていきました。そして、事業が拡大するにつれ、やがて転職が訪れます。



bio sweet's capocapo 菓歩菓歩  
代表者 石橋香織 ☎0771-84-0959  
住所/京都市船井郡京丹波町坂原シヨガネ16  
URL <http://www.capocapo.com>

て和知は、自分が描いた夢を実現するために移り住んできた場所。和知だからできたと思うのです。地産地消や食材と向き合うお菓子作りも。オーガニックという言葉だけが独り歩きし、ある種「ファッショ的なオーガニック」の風潮は表面さなといけないと石橋さん。「農業を使わないと地域の農業は成り立たないのが現実だし、高齢化や後継者不足で農業の現状は厳しい。生産者を苦しめるだけのオーガニックではダメだと思うのです」と石橋さん。「今年には地元農家で作った和知栗のお菓子で勝負です」と力を込めます。地元食材を使うことで地域農業を守り共存共栄するネットワークを広げるため、石橋さんの挑戦は続きます。



自宅敷地内に自力で建築したギャラリー「スタンドグラス博物館」。ポップで自由なスタンドグラス作品が展示されています。

て。以来、独自の世界観で数々の立体作品を手がけ数々の賞を受賞。「スタンドグラスフィギュア」という新しいカテゴリを業界に生み出しました。「もちろんちゃんとしたスタンドグラスも作っているんですよ」と舌笑いをする隆亮さんです。仕事も子育ても一人三脚のお二人。作品のデザインなどクリエイティブな部分は隆亮さんが担当し、経営

面は志保さんが担当しています。「仕事もまだまだ安定しているとは言えません。先の保障がないので今は必死なんです」と志保さん。昼間はスタンドグラスのカットなど音が出る作業をこなし、夜には作品のデザインをするというお二人。私生活と仕事との境目がなく、しんどい時があるとも。「だけど、周囲に子育て中の同世代が多いので、共通の話題や悩みが話せる、そういう環境面に救われていますね」と口をそろえるお二人です。



JAHAPON LAND  
土屋隆亮・土屋志保 ☎0771-35-5044  
住所 京都府船井郡京丹波町権山 89  
URL <http://www.jahpon.com>

ポップで自由な立体作品は、自ら開いた新天地。  
隆亮さんは「PUCCE(ラチ)」、志保さんは「SHIPPO(シッポ)」という作家名で活動。お二人が作る作品は全国から注文が入ります。「実家の会社の下請けもありますが、独立してから「PUCCE」の名前で仕事をいただくことも増えました」と隆亮さん。スタンドグラスといえは、教会で使われる格式高いものという印象がありますが、お二人が作るスタンドグラスはポップで、自由で、親近感が湧く作品が多くあります。家の敷地内に自力で建築したという「スタンドグラス博物館」には

「面倒くさい」ことをしたくて田舎へ移住して来たんですよ。自立した生き方を求めて。



京丹波町の自然環境がインスピレーションを呼び起こし、デザインの創造力を高めてくれると隆亮さんは話します。

スタンドグラスで作ったミッキーマウスやドラえもんなどのフィギュア、表札など様々な作品が並び、目を惹かせてくれます。「普通のスタンドグラス作りに飽きてしまっただけで、立体作品を作り始めたんです。最初はスタンドグラスでドクロを作って、父親にひどく叱られました。ドラえもんもスタンドグラスを製作し、それがドラえもん25周年企画の一環で取り上げられると、評価してもらえ

地域づきあいも村用も、すべてやろうと決めて来た。

区入りして地域の行事や共同作業にも参加しているお二人。隆亮さんは消防団にも入っています。「東京は便利ですが、だけと自分の足でしっかり立って生きていくという感覚がなかった。だから移住を決断したときは、地域づきあいも祭りも村用も、すべてやろうと決めて来たんです。いろいろな「面倒くさいこと」をしたくて来た、楽しもうと思っただけなんです」と隆亮さん。「将来の夢は、工房を「スタンドグラス遊園地」にすること」だと話してくれました。様々なスタンドグラスを見たり、いろいろな楽しみ方ができる、そんなスタンドグラスの楽園をめざし、お二人の工房は成長を続けます。

先駆者たちの事例紹介③  
移住 起業 哲学

# 新天地を求めて東京から移住起業。 スタンドグラス遊園地を作るのが夢。



JAHAPON LAND  
土屋 隆亮さん  
Tsuchiya Takaoaki  
土屋 志保さん  
Tsuchiya Shiho

空来未ちゃん

野依人

新天地を求めて東京から移住し  
スタンドグラス工房を起業。

スタンドグラス作家の土屋隆亮さんが京丹波町へ移住してきたのは平成20年12月のこと。実家の家業がスタンドグラス工房と材料問屋を営む会社だという隆亮さんは、実家の会社で就職し、東京支店長として働いていました。「東京で何かに依存し、流されるままに暮らしていく、そんな生活に嫌気がさして」と隆亮さん。



作家名「SHIPPO」とし、土屋志保さん。「周囲に同世代がいて、環境的には恵まれていますね」。

自分の足で立って、自立して暮らしていきたいとの思いから移住を決断したと言います。  
「移住するなら関西。高原で霧が出るところ。家は昔ながらの趣があり、小高い丘の斜面に建っている秘密基地みたいな家を探したのです」と物件探しにもアーティストとして独特の感性を働かせる隆亮さん。今の家はインターネットで探し当てたそうです。「運よく思い描いていたとおり物件に出会えましたね。京都の地名へのがれもありましたので京都で探していたんです」と隆亮さん。会社に籍を置いたまま、ひとまず京丹波町へ移住し、田舎での新しい生活をスタートしました。その後、平成22年11月に志保さんと結婚。翌年1月には独立起業し、二人で自らのスタンドグラス工房「JAHAPON LAND」を設立しました。





つみ木家具店のものづくりはすべてオーダーメイド。お二人の思いを込めた家具がお客様に幸せを届けます。

「お客さん」から「原住民」へ。転機は「米作り」と「消防」。

移住して4年が経過。このころになると地域の祭りや運動会、村用にも参加し、随分と地域に溶け込んでいた大輔さん。しかし、「確かに祭りや村用にも出て、地域の人たちと徐々に打ち解けられてきたという思いはありましたが、一方で、どこか『お客さん扱い』されているという気持ちもありました。それに私自身もお客さん扱いはされることに慣れてしまっていた面がありましたね」と当時を振り返ります。

しかし、あることを転機として地域の人たちとの距離がグッと縮まった、と言います。それが「米作り」。

「周囲の人に勧められ空き農地を借りて、地域の人たちに教わりながらも、米作りを始めたんです。それからもう、地域の人たちとの距離が一気に縮まったのを実感しました」と大輔さん。「米作りを始めるまでは、それほど地域にとっぷり浸かっていたという感覚はなかったのですが、米作りを始めてからは、地域の人たちと共通の話題が持てるようになったという、課題や悩みが共有できるから付き合いも深くなるんですよ。これ、私流に『田んぼコミュニティ』って名づけているんですけどね」。今では車で走っているときも田んぼを見るようになったそうです。「ここは代掻きしたな」「あそこ



ついに「狩猟免許」も取得。やることいっぱいのが楽しい。

「田舎って本当に忙しい。でも地域の人はみんなバワフルだし、それをリアルに見せてくれるんです。仕事に、農業に、狩猟にと。だから、ここに居て『家具しかできない』と



つみ木家具店  
上田大輔・上田亜紀 ☎0771-86-1761  
住所/京都府船井郡京丹波町買美十番 26-1  
URL <http://www.tsumiki.net>

無理してやってきたことは一つもない。ただ、本当に質美に住みたくなってやって来たんだから、それは示していく必要がある。その思いだけです。



つみ木家具店  
上田 大輔さん × 上田 亜紀さん  
Ueda Daisuke Ueda aki

先駆者たちの事例紹介⑨  
移住起業哲学

# 真に求めて来た地で「ほんもの」の豊かさを伝える家具職人。

ただ単なる「あこがれ」ではなく、真に求めて田舎へ移住。

大阪市住之江区で家具工房を営んでいた上田さん夫妻が、瑞穂地区の質美に移住してきたのは平成18年9月のこと。仕事の新しい拠点を田舎に求めて移り住んできました。上田さん夫妻が手がける家具はすべて、オーダーメイドの手作り。素材も無垢の木と天然塗料を使っています。そのほとんどがネット販売であるため、「ものづくりの拠点は環境の良い田舎のほうが有利」と大輔さん。鉄道の駅もあるし、高速道路で京阪神へ1時間半。都市圏からそう遠くない



自力で改装した母屋には、古民家特有の情緒があふれています。

いこの場所に美しい山や川、澄んだ空気。そして「質が美しい」と書く地名も家具工房を営むのに最適な地名です。質美には私たちが求めているものすべてがそろっていたのです」と移住した当時を振り返ります。

納屋を改装して工房を構え、母屋も自力で改装。いずれも古民家特有の情緒があふれています。山から薪を調達してきて暖をとる、風呂を沸かす生活スタイルも至ってシンプル。「質美で生活していると、便利さの裏で失ってきた大切なものに気づかされますね」と亜紀さん。「ここには都会でいくらお金を出しても買えない、作れない『ほんもの』があるんです」と大輔さん。高度経済成長を経た社会の、豊かさと余裕のある暮らしの中で育ってきた世代だからこそ「ほんもの」を求めている面があると話します。



平成26年4月から始まった京丹波町の「ぬく森のイス」プロジェクト。「生まれたときから地元の木のぬくもりを感じながら成長してほしい」との願いを込め、同年4月1日以降に生まれた子ども全員に贈っています。このイスを製作しているのが、つみ木家具店なのです。

## 特定創業支援事業で起業をサポート。

### ①創業相談（伴走支援）

商工会経営支援員が創業に必要なノウハウを親身にアドバイス。金融機関と連携し資金調達や販路開拓等もサポートします。



### ②起業セミナー

「経営」「財務」「法律知識」など創業に必要なノウハウを習得できるセミナー。終了後も個別相談でバックアップします。



上記の特定創業支援を受けられた方は、下の①～④の様々な特典を受けていただけます。特典を受けようとする場合は、上記の支援を受けたことについて京丹波町長の証明が必要になりますので、必要な方は京丹波町商工観光課へお尋ねください。

#### ①登録免許税の軽減

創業者が株式会社を設立する際、登録免許税が半額に。  
資本金の **0.7%⇒0.35%**

#### ②創業関連保証を拡充

●無担保、第三者保証無しの創業関連保証枠を拡充。  
**1千万円⇒1.5千万円**  
●創業関連保証が創業6カ月前から利用可能。

#### ③新創業融資制度

創業前または創業後初期  
中身を2期繰上っていない方  
日本政策金融公庫の「新創業融資制度（創業資金総額の1/10以上の自己資金が必要）」を**1/10以上の自己資金要件を満たす方**として利用可能に。

#### ④地域ビジネス創出支援補助金

町独自の補助制度。創業料により優先採択し、創業資金等をバックアップ。  
補助率：4分の3  
上限額：60万円

### ■京丹波町創業支援ネットワークの各機関において「創業相談窓口」を開設しています。

#### ◎創業支援ネットワークの各機関相談窓口

京丹波町商工観光課（ワンストップ窓口）	0771-82-3809
京丹波町商工会 本所	0771-82-0575
〃 瑞穂支所	0771-86-0003
〃 和知支所	0771-84-0192
京都銀行須知支店	0771-82-0075
京都北都信用金庫 瑞穂支店	0771-86-0025
〃 和知支店	0771-84-1131

#### ◎次の機関とも連携しています。

京都府南丹広域振興局 商工労働観光課	0771-23-4438
公益財団法人 京都産業 2-1	075-315-8897
京都信用保証協会 南丹支所	0771-22-1041
日本政策金融公庫 西陣支店	075-462-5121
〃 舞鶴支店	0773-75-2211
京都信用金庫園部支店	0771-62-0570

## あなたの夢への一步を応援します。

若者から高齢者まで人びとが夢をもってチャレンジでき、様々な可能性や選択肢、あるいは出番と活躍の場がある。ふるさとで働きながら生きがいをもって幸せに暮らせる。そんなまちづくりをめざして、京丹波町では起業支援を行っています。京丹波町へ移住またはリターンをして起業を考えている皆さんの「夢への一步」を応援しています。お気軽にご相談ください。



### 京丹波町創業支援ネットワーク

行政・商工会・金融機関の3者でつくる「京丹波町創業支援ネットワーク」が、皆さんの起業をサポートしています。

## 夢に寄り添う「充実のサポート体制」

まずは、ワンストップ窓口へお電話ください。

京丹波町  
商工観光課

TEL/ 0771-82-3809

〒622-0292 京都府南丹郡京丹波町養生堂 487-1

#### 町内金融機関

- 京都銀行須知支店
- 京都北都信用金庫 瑞穂支店・和知支店

京丹波町商工観光課

#### 創業支援ネットワーク

京丹波町商工会

#### 【連携協力機関】

- 京都府南丹広域振興局
- 公益財団法人京都産業 2-1
- 京都信用保証協会南丹支所
- 京都信用金庫園部支店
- 日本政策金融公庫西陣支店・舞鶴支店

- 事業計画や資金計画づくり、販路開拓支援など開業までをトータルサポート。
- 課題解決に向けて関係機関へつないだり、専門家を紹介したりして、ネットワークの活用と行動力で全力サポート。
- 各種制度の紹介や補助金申請書作成アドバイスなども親身にサポート。



### 農業始める人の強い味方

## 就農研修制度

農業を本格的に始める人は、次の就農研修制度を受けることができます。

### ①新規就農に向けた研修を受ける

農業次世代人材投資資金（準備型）  
就農予定時の年齢が原則50歳未満で、次世代を担う農業者となることに強い意志があり、独立・自営就農、雇用就農、親元での就農のいずれかを目指す場合に次の支援が受けられます。

最長2年間  
年間最大150万円  
資金交付



### 京都府担い手養成実践農場

京都府と京丹波町が共同で実施する制度で、年齢制限がなく、ほ場の確保、指導員の確保、農機具の借用費用、家賃の一部支援などが受けられます。

### ②専業として農業を始める

#### 青年等就農計画制度

原則18歳以上50歳未満の人や、65歳未満の知識、技能を有する人（商工業その他事業の経営管理に3年以上従事した人など）が青年等就農計画を策定し町が認定した場合に次の支援が受けられます。

- ①青年等就農資金（無利子融資制度）
- ②農業次世代人材投資資金（経営開始型、最長5年間、年間最大150万円の給付金）
- ③経営所得安定対策への加入
- ④農地集積の促進

### 京丹波町農業経営体確保・育成事業補助金

認定新規就農者を対象に施設機械整備等に係る補助対象経費の10分の3以内を補助します。



◎農林振興課  
TEL 0771-82-3808



**2021年 11月1日**

## 交流ラウンジ『こだち』

京丹波町本庁舎内にオープン。

**●図書コーナー**  
図書約1,500冊、雑誌40誌、新聞8誌が自由に閲覧できます。本は京丹波町図書館の図書利用カードがあれば貸出・返却・予約・取り寄せが可能です。

**●カフェコーナー**  
コーヒーやスイーツ、軽食などがあります。ゆっくり流れる時間の中で、本を眺みながら過ごす寛やかなひととき。木のぬくもりに包まれて「くつろぎ」の時間を過ごしてください。

交流ラウンジ「こだち」は町民の皆さんが気軽に訪れ、誰でも利用できる場所としてオープンしました。「民間」のノウハウ、くつろいだり、仕事や勉強をしたり、会話を楽しんだりする場が、皆さん流の「こだち」での過ごし方を見つけてください。

**交流施設**

**町営住宅**

住環境の安定を図ることを目的に、主に世帯向けとして、町営住宅を整備しています。家賃は月5〜7万円。※所得によって家賃は変動します。

◎土木課 電話 0771・82・3800

地区	団地	間取り	戸数
丹波地区	彌生野団地	3LDK	24
瑞穂地区	實美団地	3LDK	8
和知地区	エスポワールわち	1DK	8
	本住君富団地	3LDK	3
	本住木ノ上団地	3LDK	10
	大倉団地	3LDK	2

※各団地の空き状況については担当課へお尋ねください。

**古民家探しは「空家バンク」がおススメ！ 町営住宅も充実。**

**空家バンク**

空家バンク制度は、賃貸または売買を希望する所有者から情報提供を受けた物件をホームページで公開し、利用希望者に情報提供しています。空家バンクを通じて、行政が所有者と利用希望者の連絡調整を行います。

※交渉・契約については直接お話しください。

◎企画情報課 電話 0771・82・38001



空家の登録物件は、京丹波町ホームページで検索できます。

**●水道料金** ※基本料金、超過料金、メーター使用料の合計額に10円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てます。単位：円

メーター口径	基本料金		超過料金 (1㎡あたり)		メーター使用料	※参考※ 基本料金+メーター使用料
	使用水量	料金(円)	使用水量	料金		
13mm	~ 10㎡	2,750	10㎡を超え22㎡まで 22㎡を超える分	165 220	55	2,800
20mm	~ 24㎡	7,700	24㎡を超える分	220	55	7,750
25mm	~ 40㎡	13,310	40㎡を超える分	220	110	13,420
30mm	~ 64㎡	22,000	64㎡を超える分	220	110	22,110
40mm	~ 160㎡	53,240	160㎡を超える分	220	110	53,350
50mm	~ 215㎡	75,350	215㎡を超える分	220	110	75,460
75mm以上	~ 542㎡	195,580	542㎡を超え5,000㎡まで 5,000㎡を超える分	220 198	110	195,690

**水道**

**●下水道使用料** 単位：円

排水量	料金	超過料金 (1㎡につき)	
		排水量	料金
10㎡まで	3,080	11㎡~20㎡	110
		21㎡~30㎡	132
		31㎡~40㎡	154
		41㎡~60㎡	176
		61㎡以上	198

●下水道加入分担金 1口 880,000円

**●加入分担金**

メーター口径	分担金の額(円) (消費税含む。)
13mm	143,000
20mm	429,000
25mm	858,000
30mm	1,430,000
40mm	2,860,000
50mm	5,005,000
75mm	7,722,000

新規加入の際は上下水道課に新規加入申込書を提出してください。その後、町から加入決定通知書と加入分担金の納付書を送ります。加入金の納入確認後、給水装置の工事が可能となります。

**上下水道**

**アプリ**

**京丹波あんしんアプリの登録方法**

1 App Store や GooglePlay から「京丹波町」で検索

2 京丹波あんしんアプリをダウンロード

3 お住いの地域や受け取りたいカテゴリ、音声通知などの初期設定を行う

▼iOSの場合 ▼Androidの場合






配信内容は LINE でも受け取れます

アプリと同じ配信内容が LINE でも受け取れます。(※LINEでは登録したカテゴリの配信がすべて1つのトーク画面に表示されます。) カテゴリ別に見るときはアプリ、配信を受け取るには LINE と使い分けても便利です。

京丹波町ではホームページや広報誌「丹波のこころ」で「京丹波あんしんアプリ」で情報提供をしています。

15

14



私たちの町の私たちの病院として、顔の見える医療を提供します。



●診療科

- 内科
- 外科・肛門外科
- 整形外科
- 小児科
- 皮膚科
- 精神神経科

※診療受付時間等詳しくは当院へお尋ねください。

●入院病床数

47床（一般病床：33室、地域包括ケア病床：14床）

※当院は「救急病院」の認定を受けており、365日、診療時間外・夜間・休日にも救急外来等を受け付けています。受診を希望される方は、事前にお電話でご連絡ください。当直医が受診可能が判断します。

◎医療  
医療施設

国保京丹波町病院  
☎0771・86・0220

和知診療所  
☎0771・84・1112

町立医療施設は次の4カ所があります。そのほか民間の病院、診療所もあり、町内の医療施設は充実しています。



●診療科

- 内科
- 外科
- 整形外科

※診療受付時間等詳しくは当院へお尋ねください。

和知歯科診療所

☎0771・84・1154

診療時間  
午前9時～正午  
午後1時～4時30分  
※夜間予約

質美診療所

☎0771・86・0586

診療時間  
午後1時30分～午後4時  
午後7時～午後9時30分  
（※夜間・休日・午後3時30分

京都府立 林業大学校  
☎0771・84・2401  
西日本初の林業大学校として平成24年に開校。2年制。実践的な林業技術・知識を習得し、第一線で活躍できる人材を育成しています。

京都府立 須知高校  
☎0771・82・1171  
「普通科」「食品科学科」があり、特に食品科学科は食の宝庫・京丹波の地域特性を活かした農業・食品製造等の専門課程です。

●町立小中学校の状況

地区	学校名	児童・生徒数
丹波	竹野小学校	32名
	丹波ひかり小学校	194名
	下山小学校	42名
	蒲生野中学校	142名
瑞穂	瑞穂小学校	127名
	瑞穂中学校	68名
和知	和知小学校	64名
	和知中学校	43名

※児童・生徒数は令和3年5月1日現在。

町内の学校  
町立小学校が4校、中学校が3校あります。各校で地域の豊かな自然環境を活かした特色ある学習が行われています。



◎教育  
学童保育

学童保育

町内には3カ所の学童保育施設があります。保護者が仕事で居留守になるご家庭の児童をお預かりします。



●所在地等

クラブ名	所在地	備考
のびのび児童クラブ1組	京丹波町曾根宮ノ浦戸妻54番地	丹波地域：丹波ひかり小学校内
のびのび児童クラブ2組	京丹波町和知田丸戸3番地	瑞穂地域：旧松山保育所
のびのび児童クラブ3組	京丹波町本庄安田7番地	和知地域：和知小学校内

【保育時間】⑧～⑫ 下校時～18:00

※保育料については所帯に応じて算出。月額0円～10,000円まで

◎教育委員会  
☎0771・84・0028

◎保健福祉  
住民健診

健診は無料で、アフターフォローも充実。

次の健診がすべて無料で受診できます。健診結果に対しては保健師が丁寧に対応し、アフターフォローも充実しています。

特定健診・基本健診・後期高齢者健診・各種がん検診、ヒロリ顔検査、肝炎ウイルス、成人歯科健診など。

◎健康推進課  
☎0771・86・1800

認定こども園

子育てと仕事の両立を支える「安心の存在」。

京丹波町には3つの町立認定こども園があり、働く世代にとっては子育てと仕事を両立できる「安心の存在」です。

◎子育て支援課  
☎0771・82・1394

◎育児支援センター併設

風邪や下痢、感染症などにかかった病気の子どもさん、ケガをしている子どもさんを病院保育室で一時的にお預かりします。

●所在地

園名	所在地	定員	入園対象児
たんぽこども園	京丹波町須知藤ノ森34番地	180名	0歳児（満10ヶ月）～5歳児
みずほこども園	京丹波町和知田丸戸3番地1	100名	0歳児（満10ヶ月）～5歳児
わちこども園	京丹波町大倉家田ノ上5番地7	90名	0歳児（満10ヶ月）～5歳児

※申し込み方法等詳しくは担当課へお尋ねください。



健診結果に対するアフターフォローも充実。

経済面でも心身面でもしっかり寄り添う充実サポート。

子育て支援

医療費助成制度

すこやか子育て医療費等助成を通じて、0歳～高校卒業までの医療費を助成。高校卒業まで一医療機関2000円/月で医療を受けることができます。※入院時の食事やベッド代等の保険適用されない費用は対象外です。

◎住民課  
☎0771・82・3803

すこやか祝金（出産祝金）

出生の奨励と祝福として支給します。  
●第一子・5万円 ●第二子・10万円  
●第三子以降・20万円

チャイルドシート購入助成

満6歳未満の乳幼児を乗せられている同居家族の方を対象にチャイルドシート購入費の1/2を補助（上限1万5千円）。申請は購入日から1年以内。

ファミリー・サポート・センター

子育てを補助を受けたい方と子育てを援助したい方が会員登録し、マッチング。会員同士で必要な時に一時的に援助しあう地域に根ざした取り組みです。  
●平日/30分あたり350円  
●土日祝/30分あたり400円

◎子育て支援課  
☎0771・82・1394

ベビーマッサージ教室

生後2～6カ月頃の赤ちゃんを保護者対象に実施。赤ちゃんをマッサージすることで自律神経や内臓の動きが良くなります。保護者同士の交流の場にもなっています。

発達相談

子どもの成長過程や生活、子育て方法、子育ての悩みなど相談内容により医師、作業療法士、臨床心理士、言語聴覚士がお応えします。

マタニティ・産後3カ教室

妊娠5ヶ月から産後6ヶ月までのママを対象に実施しています。ヨガを通して健康的なマタニティ・育児ライフを送りましょう。出産や育児についての相談も行います。保育ルームもありますのでご利用下さい。

◎健康推進課  
☎0771・86・1800



# 京丹波町エリアマップ

Kyotamba Area Map Tamba Mitsuho Wachi

**丹波エリア**  
京丹波町の中心エリア。食品関連等の工場が多く立地し、京都府唯一の船着地帯も広がる。

**瑞穂エリア**  
病院や保健福祉センター等の医療・福祉機能が集積。大納言小豆、瑞穂そばの産地でもある。

**和知エリア**  
河津段丘の景色が美しく、風光明媚なエリア。森林や食材など地域資源が豊かで近年、移住起業家も多い。



京丹波の魅力発信拠点！  
町内4つの道の駅は身近な販路として頼れる存在。

**京丹波 味夢の里**  
京都縦貫自動車道・京丹波PAに併設した道の駅で、その集客力は絶大。一般道からも入庫でき、地元客も多い。町内事業者の販路として頼れる存在。

**瑞穂の里さらびき**  
総合運動公園「グリーンランドみずほ」の玄関口。国道173号沿線にあるため、大板方面からの集客でにぎわう。  
☎0771-88-9350

**丹波マーケス**  
スーパーマーケットをはじめ、ショッピングを楽しむ専門店と飲食店がある大型施設。空き区画でのテスト販売も可能。  
☎0771-82-3180

**和(なごみ)**  
日本海方面へのレジャー客らが立ち寄る。朝市や名物のアユなど地元食材の根強いファンもある人気の道の駅。  
☎0771-84-1008

**Q** 京丹波町で起業したいのですが、どこに相談すればいいですか？  
**A** まずは、京丹波町商工観光課にご相談ください。その後相談内容に応じて関係機関へのご案内・同行、専門家の派遣、創業計画書作成を支援するなど皆さんの起業実現までを行政・商工会・金融機関が連携して伴走支援します。もちろん開業後もしっかりフォロー。詳しくは12ページをご覧ください。

**Q** 田舎の人づきあいは大変？  
**A** 起業するにはどこに相談すればいいの？  
**Q** 子育てや教育は？  
**A** 住宅は？

## 移住起業 Q&A

**Q** 京丹波町に移住して、農業を始めたいのですが、何か支援はありますか？  
**A** 農業を本格的に始める方を対象とした「就農研修制度」があります。年間150万円の給付金を受けながら就農準備ができる制度や、京都府と町が共同で農地や指導員の確保、農機具の借用費用や家賃の一部を補助する支援等があります。詳しくは12ページをご覧ください。

**Q** 京丹波町で起業する人にはどんな業種が多いですか？  
**A** ガイドブックで何人かの先輩移住起業家を紹介しています。業種は様々ですが、最近の傾向としては、士民家を改修した農家カフェ・レストランをめざす人が増えています。

**Q** 空家バンク制度があり、登録いただいている物件を紹介しています。詳しくは14ページをご覧ください。  
**A** 空家バンク制度があり、登録いただいている物件を紹介しています。詳しくは14ページをご覧ください。

**Q** 京丹波町で起業する人にとって、地域の人たちと交流イベントからアプローチするのも有効です。  
**A** 移住前に地域の方と交流できる制度はありますか？  
**A** 京都府の「おいしい食の応援隊」事業では、農作物の苗植えや収穫作業、交流イベントなど、一年を通じた継続的な探検活動により地域の人たちと親しくなれます。

**Q** 田舎の人づきあいは大変だと聞きますが、本当ですか？  
**A** 都会よりも近所づきあいが深く、行祭事や共同作業が多い傾向にあります。こうしたことを通じて、お互い助け合い、支え合って生活していく相互扶助の精神が根付いています。集落単位に自治会組織があり、区費を納めて区の一員になることを「区入り」といいます。移住後はぜひ、区入りされることをお勧めします。

**Q** 子育てのための支援には、どんな制度がありますか？  
**A** 高校卒業までの医療費助成や出産祝いなどの支援をはじめ、働きながら安心して子育てができる環境も整っています。詳しくは16・17ページをご覧ください。